地域と大学生の「金蔵ブランド」立ち上げによる地域活性化

学生団体名：金沢大学法学類公認サークル　地域ブランディング研究会(金沢大学)
参加学生：田中星羅、野村詩織、濱本愛理、大橋葵、木口侑紀、大野木圭、中村眞梨子、海老原哲男、小泉亮眞、井口雅貴

１．地域活動の概要（２００字程度で簡潔にまとめてください。）

今年度は昨年度に引き続き、金蔵を発信する活動に重点を置いた。今後積極的に展開していく金蔵での各種イベント開催、また県内において金蔵についてのＰＲ活動を行った。金蔵のみそソースの商品化、いしかわ食のてんこもりフェスタへの出店、チラシの作製・配布、様々な人との交流など金蔵の方とともに金蔵の魅力を発信した。同時に継続的な金蔵の情報発信を目的としたブログの更新を今年度も継続した。金蔵万燈会では運営補助と並行して金蔵アンケートも実施し、来年の万燈会に活かすために結果を集計した。

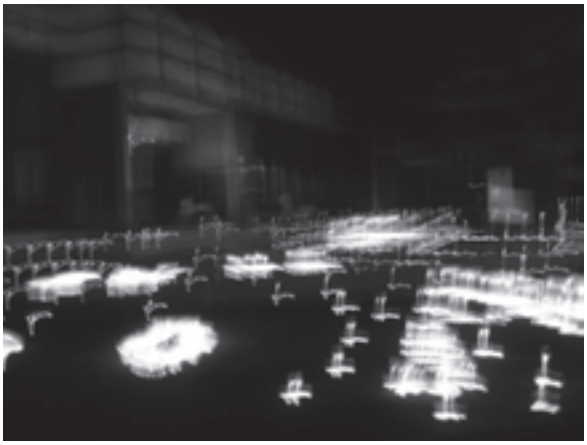
２．地域活動の具体的な内容

◎４月２９日「能登ツアー」…金蔵の住民約６名　学生１４名
金蔵初訪問の１年生 10 名を連れ、金蔵の歴史ある五箇寺や棚田を見て回った。その後ゲストハウス「寺寺」で地元の方に金蔵の魅力や今後の地域づくりの方針を聞いた。金蔵の地域づくりの方針は以下の「３本の矢計画」であった。

１本矢　基本的資源村内生産構造の確立で、金蔵資源のデータベース作りから今後の展開
２本矢　地産地消で、米・味噌を中心とした他特産品の開発、ネーミング、パッケージデザイン化
３本矢　交流人口の拡大で、金蔵資源（万燈会を含む）の魅力創出・発信

◎６月２５日「金蔵を舞台に里山を語り考える会」…金蔵の住民約３名　学生…７名
正願寺にて第１回金蔵オープンビレッジが開催され､前年のコンソーシアムの発表を行った｡その後、グループワークにて金蔵の現状と今後の課題について話し合い、金蔵をモデルに活動計画を立てた。グループディスカッションでは、①棚田保全②特産品開発③交流活動④交流拠点づくり⑤教育活動の５つの班に分かれて各々が思っていることを２日間に分けて話し合った。

◎８月１６日、１７日　「金蔵万燈会」…金蔵の住民約１０名　学生…８名
今年も①金蔵万燈会の手伝い②金蔵アンケートの実施③万燈会の写真撮影を目的に当日は８人で向かった。１６日は地域住民と万燈会用コップの配置・着火を行った。同時にブランディングに必要な客観的視点から見た金蔵のイメージについての把握と客層の調査のために金蔵アンケートを実施した。また、屋台では金蔵の米を使ったおにぎりを販売した。今年は天気が良かったので非常に多くの人が訪れてくれたので、昨年度よりも充実したアンケート集計を行うことができた。夜は、金蔵の方々、観光客の方々などと交流を図った。二日目は、朝からコップ回収を行い寺や集会場、路上の片づけを行った。昨年度とは違った関わり方ができたため、また別の方向からこの万燈会の魅力や改善点を見つけることができた。



◎８月２２、２３日「合宿」…金蔵の住民数名、学生 11 名

ゲストハウスにて、金蔵の米と味噌をどのような形で売り出すかについてワークショップ形式で話し合った。その中で、金蔵の味噌を味噌ソースにする、金蔵の米を使って団子を作るなどの意見が出され、実際に味噌を味見したりお店で出されている団子を食べてみたりした。金蔵の美しい棚田や自然の中を散策したりバーベキューをしたりしてサークル生同士の仲も深まり、非常に良い合宿であった。

◎１０月１０日「第１回金蔵みそソース×お好み焼き試作会」…金蔵の住民多数　学生９人

合宿で話し合ったみそソースについて、能美市の「おこのみ志民クラブ」の方が興味を持ってくださったので、共同開発に向けての試作会を行った。金沢であらかじめ作っておいた加賀丸いもを使ったお好み焼きに、金蔵の味噌で作ったさまざまなソースをかけてみんなで試食した。ここでは、２月５日の「いしかわ食のてんこもりフェスタ」への出店を目標とし、次回の試作会に向けて改善点などを話し合った。

＜いしかわ食のてんこもりフェスタとは＞

石川県主催の県内最大級のご当地グルメイベント。２月５日に石川県産業展示館３号館で開催。

◎１１月４日「第２回金蔵みそソース×お好み焼き試作会」…金蔵の住民７人、学生９人

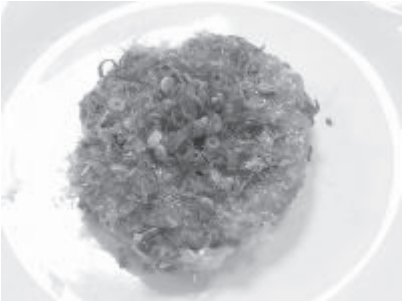
今回の試作会は、能美市の「おこのみ志民クラブ」から代表２名をお呼びし合同で試作会を行った。当日販売するお好み焼きのだいたいの形が決定した。

◎１２月１０日「第３回金蔵みそソース×お好み焼き試作会」…金蔵の住民７人、学生９人

今回の試作会は、再び「おこのみ志民クラブ」の方々をお呼びし合同で試作会を行った。

当日の調理の流れを意識した活動となった。

◎１月２１日「能美市　金蔵みそソース×お好み焼き試作会」学生…１０人



能美市根上学習センターにて､いしかわ食のてんこもりフェスタにむけての最終試作会が開催された。各種メディアを交えての試作会だったため金蔵の知名度を上げることができた。

◎２月４日「前日準備」…金蔵の住民２人、学生７人

◎２月５日「てんこもりフェスタ」…金蔵の住民２人、学生７人

３．地域活動の評価

今回の活動において積極的に金蔵を発信することができた。金蔵は輪島市にあるにもかかわらず山の奥深くに位置するため県民であっても周知度が低い。金蔵には豊かな自然があり、またそれとマッチするように住んでいる方たちもユーモアあふれ活力がある。そんな魅力をぜひ多くの人に知ってもらいたいと考え、今年は学生の斬新なアイディアをもとに金蔵みそを使った味噌ソースを作りいしかわ食のてんこもりフェスタなどのイベント出店などの周知度を上げる取り組みに貢献できた。また足を運べない方にも金蔵を身近に感じてもらえるように昨年度作成したｗｅｂ上での情報発信をサポートしながら随時アップし続けることができた。地域ブランディング研究としては金蔵の客観的なイメージや、訪問者層を把握するために金蔵アンケートを今年度も実施した。今年は天候に恵まれた開催となったため多くの人が訪れより様々な意見を聞くことができた。今後金蔵に人を呼び込むためにどの点を強みとして活かしていくのか、どういう層にＰＲしていくべきかを検討するデータ収集を目的としている。また来年度も体制を整えより正確なデータを取り今後に生かしていきたい。

４．今後，この地域活動を継続，活発していくために必要なもの，及び課題

金蔵の想いは豊かな里山・棚田の保全、地産地消である。そのために外の人との持続的な交流、最終的にはより若い年代の方が定住してくれることが望ましい。今後、金蔵では各種イベントを随時企画し金蔵に人を呼び込んでいきたいと考えている。そこで課題となる点は以下の３つである。

① 各世代への効果的な情報発信

各世代において情報を得るために使用するツールは様々である。今年度はチラシ、ブログ、直接交流などの方法の継続をとったが、各世代、性別、年齢にあった効果的な情報発信方法を検討していく必要がある。次年度においても万燈会アンケートを実施し、対象世代・魅力・課題をより正確に把握し・分析し活動に生かしたい。こちらから一方的に発信するだけではなく、相手側にも実際に金蔵に足を運んでもらうことで交流が生まれるようになることが目標である。

② 若い労働力の確保

今年１１回目となる金蔵万燈会は準備から片付けまでかなりの重労働となる。実際参加してみて実感したが、高齢化が進む金蔵において万燈会を継続させていくためには若い労働力が必要である。約３万ものろうそくを灯す万燈会は金蔵の誇りであり受け継いでいきたい伝統だ。次年度ではコップの洗浄から片付けまでをセットにした万燈会ボランティア体制の構築を検討している。ブログや学内、輪島市内で幅広く募集をかけ、参加してもらう人には金蔵の歴史や人柄に触れてもらいながら万燈会を作り上げていく体験をしてもらうことを検討している。また今後の課題としてこの万燈会を継続させていくための資金調達の方法を考えていきたい。

③ 情報の共有

金蔵にも輪島観光の一つとして足を運んでもらうためには、輪島市内においても金蔵のイベント開催や取り組みの周知性を上げなければならない。輪島市役所のＨＰには内容を検討したうえでリンクを貼らせていただけるとのことだったため金蔵の歴史をまとめたＨＰの作成に取り組む必要がある。また金蔵での行事は突発的であるため、行事の周知性を上げることが難しく、参加者が集まらないのが現状である。今後は開催予定の行事を洗い出し、金蔵イベントカレンダーを作製したい。計画性を持つことで参加者が事前に知り、予定を立てやすいようにする。また何よりも重要なのが金蔵内での情報の共有である。現段階ではどういう取り組みを行っているか把握できていない方もいる。人を呼び込むことへの理解と協力を得るために、何が必要で何に取り組むべきか、どういうイベントを企画するかなどを金蔵全部で共有していくことに力を入れたい。

５．その他（学生や地域の方の感想等）

今年度は金蔵の方と頻繁に交流できたため限界集落の現状や、里山保全への想いを知ると同時に農業や食、また金蔵以外の農家の方や観光客とも触れ合うことができ視野が広がった。学生が活動していくにあたって地域の方の積極的な協力は何より重要である。その点で金蔵の方は学生の提案を実際に形にする協力に積極的で、挑戦の機会を与えてくれるため今年度の活動は提案から実行までをスムーズに進めることができた。また、金蔵の方からも要望・提案が活発に行われるため、随時活動の目標を立てることができたため有意義な１年となった。今年は能美市と合同で金蔵味噌ソースの開発を中心に活動してきたが、来年度は金蔵の別の商品とセット販売をしてより金蔵の知名度を上げていきたい。

＜金蔵の方より１年を通して＞

地域ブランディング研究会の皆さんと話し合いをする中で、米のブランド化の前に、地域のブランディング、地域の特性、もっと誇れるものを確実にしなくてはいけないという提案もあり、ネーミング・パッケージのほかに、学生たちからいろいろな提案を頂いています。現在、金蔵の里山保全のためのプラン提案を頂き、3 本の矢計画として次の活動展開中であり、非常に良かったと思います。

今後、２本矢・３本矢の内容の展開について是非皆さんの協力をお願いしたいと思います。